

第2章 「地域再生の芽」の発掘

第2章 「地域再生の芽」の発掘

1. 空港との相乗効果が今後期待される分野と先進事例の検討

日本は少子高齢化による人口減少社会に突入したとみられることから、これまでの観光戦略だけでは、地方における旅客・貨物の大幅な需要増を生み出すことが困難な時代となってきている。徳島県においても観光を基軸とした需要創造や地域再生には限界が見えてきている。

一方、平成21(2009)年のリーマンショック以降、各地方・地域においても、地域資源や人材の活用、国の様々な指定制度の活用、科学技術の導入を織り交ぜた、様々な地方創生に向けた取組を進めてきた。

こうした取組の中で、効果の現れてきた先進事例の中には、それぞれの地域の特色を活かした上で、人材や技術を相互に連携していくことで、新しい産業創出や学術研究の推進に寄与できる可能性を秘めていることが分かってきた。



出所) 四国大学服部准教授資料から転載

図表 2-2 地域資源やエネルギーを活かした地域への指定制度の例

| 指定の種類 | 地域・都市指定の目的 | 地域数 | 県内 |
|---------------------|-------------------------------|-----|-------|
| 国際戦略総合特区 | 産業の国際競争力強化施策を総合的・集中的に推進 | 7 | 1(全県) |
| 地域活性化総合特区 | 地域の活性化に関する施策を総合的かつ集中的に推進 | 41 | 0 |
| 環境未来都市 | 持続可能な経済社会システムを実現する地域づくり | 11 | 0 |
| 環境モデル都市 | 持続可能な低炭素社会の実現に向け先駆的取組に挑戦 | 23 | 0 |
| バイオマスタウン | バイオマスの安定的な利活用が期待できる地域 | 318 | 3 |
| バイオマス産業都市 | バイオマス産業創出と地域循環型エネルギーの強化 | 8 | 0 |
| 次世代エネルギー・社会システム実証地域 | 次世代エネルギー・社会システムの実証(スマートシティ構想) | 4 | 0 |

出所) 徳島県資料から転載

図表 2-3 航空貨物及び旅客第三需要創出に関する分類

| 航空貨物における需要創出可能性 | | |
|---|---|---|
| ①旭川市における需要創出の可能性 ・広域圏を中心とした高級木材の東アジア最大市場 ・国際家具デザインフェアの本拠地 | 高級木材の購入・輸送・加工・返送に伴う輸送需要 ・素材・技術・ニーズのマッチング ・新製品のコンセプト ・新潟県も特産品産出市場→連携の可能性 ・人材・産出物の流通(供給地の複合化) | 輸送機材・輸送コンテナの検討 ・コンテナ輸送可能機は8767 ・LD-3:1機~4LD-2:2機へ ・8737以下は有用コンテナ |
| ②度美よし町における需要創出の可能性 ・稀少品産出を有する町とできる経済効果(加工技術) ・道新や文房具・電子機器・室内装飾への活用 | 高い加工技術を活かした部品輸送需要 ・産出物を活かした製品 | |
| ③酒市における需要創出の可能性 ・ネジやシャフト等におけるマシン・モロファン等の利用 ・地産物企業とのコラボレーションの可能性 | 高い加工技術を活かした部品輸送需要 ・産出物を活かした製品 | |
| 第3需要新規旅客の需要創出可能性 | | |
| ①上勝町における素材 ○環境・景観・農林業の好事例のワンパッケージ化 ○(株)いんばりによる研修がはじまる ○国産FUR(エコパーク)構想→研修拠地の役割 | ④会津若松市における素材 ○再生可能エネルギー分野の発展が促進 ○気候・電力消費の総合管理の構築 ○会津大学を中心とした研究・研修効果の可能性 | 観光利用とは異なる利用条件 ○空路から1時間半以上 →宿泊や研修の距離 ○研修の需要を創出 →学術研究や研修でなければ 朝夕の便も必要はない ○宿泊日は月~木曜日 →研修・研修者の有効活用 |
| ②那賀町における素材 ○経済界・バイオマス関係の事業・施設が集中 ○国産産品産出のシエロ管理やエコアークの素材 ○経済界・自然共生技術の研究拠点としての役割 | ⑤阿賀町における素材 ○町内主要産品へのバイオマス利用の促進 ○木質チップ ○会津大学を中心とした研究・研修効果の可能性 | |
| ③祖谷(三好市)における素材【予定】 ○建築学上も伝統的建築物の技術の知名度 ○宿泊・滞在サービス充実 | ⑦旭川市における素材 ○国際家具デザインフェアへの出展 ○旭川市工業センターへの職人研修派遣 | 関係者間の連携 ○CSR活動コースへの対応 →支店レベルでの対応は可能 ○研修や研修の活用 →連携がなし、予約制での対応 |
| ⑧牟岐町・海陽町における素材【予定】 ○スポーツツールの拠点としての機能 ○車組したスポーツ企業業者のコーディネート | ⑧その他の候補地 ○下川(北海)・寿(徳島)・阿波(徳島)等 ○資源・エネルギーに関する革新的な取組の地域 | |

※服部(2014)の調査結果を一部改変

出所) 四国大学服部准教授資料を徳島県で修正し転載

① インバウンド分野

徳島県(2014)及び四国大学(服部(2014))の取りまとめ結果によると、航空交通分野においては、これまでのビジネス(第一需要)、従来型観光(第二需要)に加えて、新たに「学術研究」「新産業創出(新素材・再生可能エネルギー)」「スポーツツーリズム」「教育研修(企業研修や学校の宿泊旅行)」など、いわゆる「第三需要」を的確に発掘・育成することが重要で、その候補例として、上勝町(研修ビジネス)、那賀町(ジビエやバイオマス等の山村ビジネス)、祖谷(三好市、伝統的建築物群)、牟岐町・海陽町(スポーツツーリズム)を挙げている。

② アウトバウンド分野

四国大学(服部(2014))の取りまとめによると、再生可能エネルギーや木材・バイオマス利用の先進地域との間で交流を推進し、産学民官の人材・知識を交流させることによる航空需要の可能性を挙げており、かつ航空交通を活用する候補事例として、旭川市(木材・家具)、会津若松市(再生可能エネルギーやスマートシティ)、阿賀町(バイオマス利用)などを挙げている。

またこれらの交流においては、第三需要の利用目的の性質上、①航空便や宿泊施設については、土日祝日より平日に利用頻度のアドバンテージが期待されること、②特に航空便については、移動を主とする観光と異なり、研修での滞在が前提となることから、朝夕での利用よりも昼間便の活用の方が望ましいこと、の2つの点で早期の発掘・マッチング・導入が期待される。

図表 2-4 航空交通による県外との人材・知識の交流候補市町の事例



出所) 四国大学服部准教授資料から転載

次節以降、これらの空港との相乗効果が今後期待される分野について、徳島県内での事例を収集・整理し、今後の地域再生のシナリオを検討した。

2. 県内萌芽事例の抽出・分類

徳島県における地域再生に係る事例は、これまでに重視してきた観光創造ではなく、MICEとして産学官民の4者が一体となって取り組むことによって、研修や視察、体験等の新たな需要創造を生み出すものを対象としている。

本調査では以下の2種の種別で整理する。なお、ここでは萌芽事例の将来需要を新規需要として推計結果に盛り込むため、既設の大型MICE等は対象としない。

- 徳島県内の先進事例：ここ数年で集客若しくは集荷で一定の成果を上げている事例
- 徳島県内の萌芽事例：未だ大きな集客若しくは集荷の成果はないが成長性に期待を持つ事例

さらに、事例の事業タイプから以下の5点に選別する。

- 新規ビジネス系：新規事業の発掘
- 環境系：エコやごみ、バイオマス等の環境関連
- 農山村応援系：中山間地域の農業振興や森林の育成や保護関連
- 体験ツーリズム系：田舎体験や農業体験、マリンスポーツ体験
- イベント系：イベントを起爆剤に他の事業と連携

また、事業の進捗状況を誘客の観点から以下の3段階で整理する。

- 萌芽段階：事業としてスタートレベル
- 発展段階：事業が軌道に乗り、誘客がスタートしたレベル
- 成長段階：誘客が拡大し始めているレベル

今回は、徳島県内における有望事例として、上勝町、那賀町、三好市、美馬市、牟岐町、海陽町及びこれら他地域と結び付ける新たなマッチングイベントにおける以下の県内事例を抽出して詳細分析を行った。

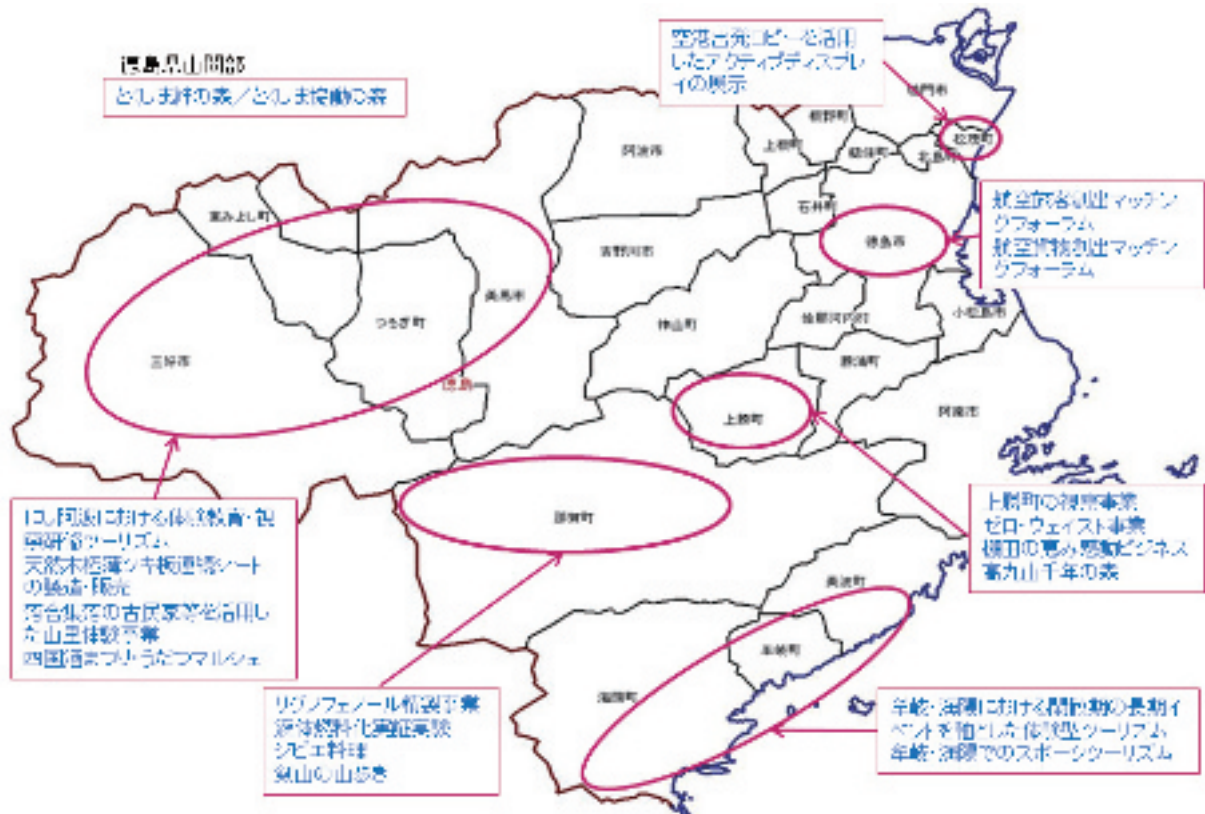
これらの事例については、以下のような種別、事業タイプ、進捗状況で整理を行うこととした。

図表 2-5 抽出された事例の概略

| 名称 | 主体 | 場所 | 種別 | 事業タイプ | 進捗状況 | 備考 |
|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------|------|----------|------|-------|
| 上野町の温泉事業 | 鶴いろどり | 上野町 | 先進事例 | 新規ビジネス系 | 成長段階 | |
| ゼロ・ウェイスト事業 | ゼロ・ウェイストア카데미 | 上野町 | 先進事例 | 環境系 | 完成段階 | |
| かみかつ畑田のめぐみ産産ビジネス | かみかつ畑田のめぐみ活用会 | 上野町 | 萌芽事例 | 農山村応援系 | 萌芽段階 | |
| 高丸山千年の森 | かみかつ農山村振興 | 上野町 | 先進事例 | 農山村応援系 | 完成段階 | |
| リゾノフェール精製事業 資源材料化施設建設 | 松賀町 | 松賀町 | 萌芽事例 | 新規ビジネス系 | 萌芽段階 | 森林×環境 |
| 四重美谷温泉シエ料理 | 四重美谷温泉 | 松賀町 | 萌芽事例 | 新規ビジネス系 | 萌芽段階 | |
| 剣山南側におけるネオツーリズムの 検証 | 四重美谷温泉 | 松賀町 | 先進事例 | 体験ツーリズム系 | 完成段階 | |
| としま柿の森/としま柿農の森 | 徳島森林づくり推進委員会 | 徳島県山形部 | 萌芽事例 | 農山村応援系 | 萌芽段階 | |
| ロノ河津における体験教育・観光研 究ツーリズム | そののの | 三好市、美馬市 等 | 先進事例 | 体験ツーリズム系 | 完成段階 | |
| 天然木産物から板造りシートの新 産・販売 | 鶴ビッグワイル | 美馬市 | 萌芽事例 | 新規ビジネス系 | 萌芽段階 | |
| 落合集落の古民家等を活用した山 庄体験事業 | 特定非営利活動法人 落雁トラスト | 徳島県三好市 山県 | 萌芽事例 | 新規ビジネス系 | 萌芽段階 | |
| 石匠酒まつり・うたつマルシェ | 阿波池田商工会議所、 青年会議所、うたつマル シェ実行委員会 | 阿波池田町 池田 他 | 萌芽事例 | イベント系 | 萌芽段階 | |
| 牟婁・海環における開港期の長期イ ベントを軸とした体験型ツーリズム | 牟婁町商工会 | 牟婁町、海環町 | 萌芽事例 | イベント系 | 萌芽段階 | |
| 牟婁・海環でのスポーツツーリズム | モリスコムズ、クワンマ ラン人力旅行社等 | 牟婁町、海環町 | 先進事例 | 体験ツーリズム系 | 完成段階 | |
| 航空旅客創出マッチングフォーラム | 徳島空港利用促進協議会 | 徳島市 | 萌芽事例 | イベント系 | 萌芽段階 | |
| 航空貨物創出マッチングフォーラム | 徳島空港利用促進協議会 | 徳島市 | 萌芽事例 | イベント系 | 萌芽段階 | |
| 空港出発ロビーを活用したアクティ ブディスプレイの展示 | 徳島空港ビル(株) 西国大 学 | 松茂町(徳島河 津おどり空港) | 萌芽事例 | イベント系 | 萌芽段階 | |

出所) 各種資料から(株)野村総合研究所作成

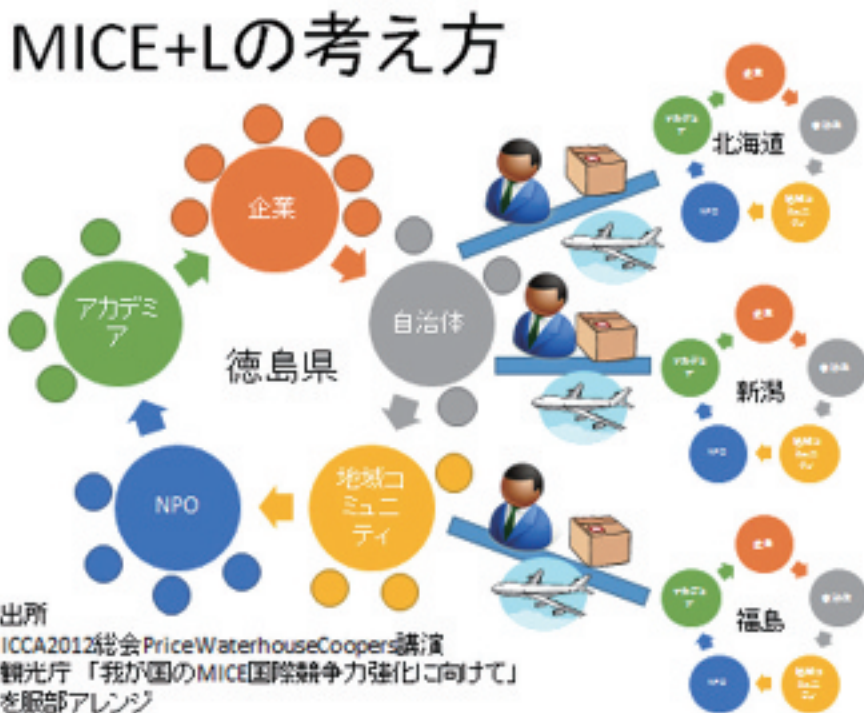
図表 2-6 萌芽事例の位置



出所) (株)野村総合研究所作成

貨物の新規需要創造に際しては、下図のとおり、企業、自治体、地域コミュニティ、NPO、アカデミアが相互に連携し、一方では他地域のこれらとネットワーク化することで新たな貨物需要（MICE+L）を創造することを想定しており、ここではこれらの萌芽となる事例について調査を実施した。

図表 2-7 MICE+L（貨物輸送）に関するネットワーク化



3. 代表的な先進事例・萌芽事例の詳細分析

図表 2-5 に抽出した事例について、公開資料及び現地視察等に基づき以下のとおり詳細分析を行った。なお、各事例の記載内容及び表現は、あくまでも本調査研究実施時点の検討委員会としての調査所見であり、各事例の実施主体の見解とは必ずしも一致しない場合もあることに留意が必要である。

(1) 上勝町の視察事業

図表 2-8 事例の概要

| | | | |
|----------|--------------|------|-----------------|
| 名称 | 上勝町の視察事業 | 主体 | (株)いろどり（上勝町が委託） |
| 地区 | 上勝町 | 時期 | 通年事業 |
| 種別・事業タイプ | 先進事例・新規ビジネス系 | 事業進捗 | 発展段階 |

①事業内容

上勝町の各種事業を視察するもので、株式会社いろどりが事務局を担当している。現地集合現地解散の事業。3カ所まで2,000円/人（以降は2カ所増える毎に+2,000円）で、5つのモデルコースが設定されているが、来訪者の興味に合わせて組み合わせは可能となっている。顧客のニーズに合わせて視察コースをコーディネート（各施設の予約や時間調整）し、来訪時には案内を実施する。

図表 2-9 上勝町の視察事業の紹介

出所) (株)いろどりのパンフレットから転載

②関係主体

JA 東とくしま上勝支所，(株)いろどり（彩事業，インターンシップ事業，シェアカフェ），ゼロ・ウェイストアカデミー，上勝百貨店，上勝町，合同会社 RDND（Café polestar），月ヶ谷温泉「月の宿」

③広報宣伝活動／今後の発展方向

ネットをみての直接の申込みもあるが，旅行会社を通じての問い合わせが多くなっている。

現時点でいろどりから各方面への売り込みは特になく，旅行会社にパンフレット等を渡す程度である。現時点の体制では 5,000 人程度が受入れの限界であるが，安定的に増加するのであれば視察担当者を増やして 10,000 人程度まで受入れが可能と考えられる。

(株)いろどりの「葉っぱビジネス」の主な業務となっている，生物多様性を活かした「葉っぱビジネス」（つまものの提供）については，平成 27(2015)年 1 月にフランス・リヨンで開催した世界最大級の外食産業見本市「Sirha(シーラ)2015」や 2 月のタイ・バンコクの見本市への出展など積極的な海外展開を図っており，今後は航空貨物だけでなく，研修の分野でも，これに関する国内外の研修旅客の増加が想定される。

④交通アクセス等の課題

1 日 6 便のバスがあるが，空港からの直行便はなく 3 回程度の乗換が必要であり，空港から上勝までのアクセスが課題である。上勝町内には過疎地対策としての有償ボランティアタクシーがあるが，観光利用はできない。

宿泊施設も山の楽校で 20～30 名，4 つの民宿で 4～6 名で 20 名程度，月ヶ谷温泉で 60～70 名でおおよそ 100 名前後である。

どの地域から来訪があるかはおおむね把握しているが，来訪に係る交通手段については特に把握していない（九州からの来訪者が航空利用しているかは不明）。

(2) 上勝町のゼロ・ウェイスト事業

図表 2-10 事例の概要

| | | | |
|----------|------------|------|----------------------|
| 名称 | ゼロ・ウェイスト事業 | 主体 | NPO 法人 ゼロ・ウェイストアカデミー |
| 地区 | 上勝町 | 時期 | 通年事業 |
| 種別・事業タイプ | 先進事例・環境系 | 事業進捗 | 発展段階 |

①事業内容

上勝町で発生するごみのゼロ化を進めており、ゼロ・ウェイスト事業としては以下の事業が実施されている。日比ヶ谷ゴミステーションにおけるごみの収集について、町民が当該施設へ持参することを原則とするが、持参できない町民に対しては、月に1度個別収集が行われる。

- ごみの34分別による売却：町民が自身が持ち込んだごみを34分別と細かく分別することで、資源として買い取られるものを増やし、処分されるものを極力へ減らしている（目標0）。
- リサイクル（そのまま）：家庭で不要となった家電製品や家具、本などを「くるくるショップ（地元の小学生の発案）」に展示し、町民が自由に持ち帰っている。
- ごみの再利用：衣類などをくるくる工房で再加工することで商品として販売している。地元高齢者の介護予防活動の一環にもなっている。
- 生ごみのたい肥化：生ごみの収集はなく、町民自らたい肥化する。ゼロ・ウェイストアカデミーではそのための方法やツールを紹介している。各家庭でたい肥化するための処理機については町から購入補助（5万円の処理機購入で、4万円の程度の補助）がある。

図表 2-11 ゼロ・ウェイスト事業



出所) NPO 法人ゼロ・ウェイストアカデミーの Web サイトから転載

②関係主体

上勝町、(一社)地職住推進機構

※食品・油等の量り売りを実施する「上勝百貨店プロジェクト」の試行を協業している。

③広報宣伝活動／今後の発展方向

上勝町の視察事業のコンテンツの1つとしてネット上で情報発信されている。今後、サステナブルアカデミーを実施する計画があるが、講師の質が課題である。JICA を通じて海外からの研修を受け入れた実績がある。

④交通アクセス等の課題

公共交通機関は町営バスのみであり、徳島阿波おどり空港からのダイレクトアクセスはない。

町内は有償ボランティアタクシーで移動が可能であるが、他の仕事と兼業しているため1日5件程度の供給になる（登録台数は20台）。過去には、乗り合いタクシーもあったが、利用者が少なく撤退してしまった。

県外からの集客を考えると上勝町だけでは弱く、神山町等との連携が必要である。

(3) かみかつ棚田のめぐみ感動ビジネス

図表 2-12 事例の概要

| | | | |
|----------|--------------------|------|----------------|
| 名称 | かみかつ棚田のめぐみ感動ビジネス 他 | 主体 | かみかつ棚田のめぐみ活用会議 |
| 地区 | 上勝町 | 時期 | 通年事業 |
| 種別・事業タイプ | 萌芽事例・農山村応援系 | 事業進捗 | 萌芽段階 |

①事業内容

ア) 棚田のめぐみ感動ビジネスづくりプロジェクト

かみかつ棚田のめぐみ活用会議に徳島大学、地元11企業・団体、交通機関等の連携組織10企業・団体を加えた25団体により、拡大版ともいえる「かみかつ棚田のめぐみワークショップ会議」を立ち上げ、次の5つのプロジェクトを実施している。

図表 2-13 棚田のめぐみ感動ビジネスづくりプロジェクト（1）

- ・ 棚田ノルディックウォーク(2回実施・61名参加)
- ・ 棚田ライトアップ(準備作業・当日運営で延べ320名の学生参加)



- ・ 棚田オープンファーム(20名参加)



- ・ 棚田ウェディング(92名参加)



図表 2-14 棚田のめぐみ感動ビジネスづくりプロジェクト（2）

- ・ 棚田オーナーリニューアル(300名参加)



出所) 徳島大学上勝学舎 澤田客員教授資料から転載

イ) 参加団体個別のプロジェクト

NPO 法人郷の元気のプロジェクトにおいては、後継者のいない棚田を対象にオーナーという形で1年間貸し出している。オーナーは年に4回来訪し、収穫に必要な農作業を行うが、来訪がない間は上勝側で必要な農作業を行っている。現在は、27～28組程度でおおよそ100名程度の上勝町外のオーナーがいる。この内、10%は県外で以前は東京にも2～3組のオーナーがいたことがある。棚田

オーナーの費用は、棚田で100㎡につき5万円、畑で50㎡につき2万円、すだち、ゆず、ゆこうは1本につき1万円、キウイは1本につき1.25万円となっている。

徳島大学上勝学舎は現在6年目の取組で、1年目は人材育成、2年目に大学院、4年目に大学院カリキュラム（上勝2日間であとは徳島）、6年目で学部カリキュラム（上勝3日間であとは徳島）と発展してきている。

自然体験活動指導者（NEAL）の資格取得講座を上勝で実施。4回の受講で全国の講座資格が取得可能となり、今年度の第1回では25名の応募があった。他にも棚田ウェディング、棚田オープンファーム、棚田ノルディックウォーク等を開催予定であり、新たな講座として地域連携のための合意形成や協働形成に資するMICE講座が徳島大学上勝学舎で開催が予定されている。

図表 2-15 棚田のめぐみ感動ビジネス



出所) 徳島大学上勝学舎 澤田客員教授資料から転載

図表 2-16 棚田のめぐみ感動ビジネスにおける活動概要

| 棚田のめぐみ感動ビジネスにおける活動概要 | | | | | | | (平成26年7月11日) |
|----------------------|--|---|--|--|--|--|--------------|
| プログラム | 棚田ウェディング等 | 棚田アクティビティ 棚田ライトアップ | 棚田オープンファーム (ユズ) | 棚田ノルディックウォーク | 棚田オープンファーム (ユコウ) | 棚田オーナー | |
| 取組区分 | 新規 | 新規 | 新規 | 新規 | 新規 | リニューアル | |
| (協賛)主体 | 4地区共同 | (八重地地区)八重地地区活性化協議会 | (八重地地区)八重地地区活性化協議会 | (極楽地区～市宇地区)市宇地区活性化協議会 | (田野々地区)神田満天里会議 | (極楽地区)養家の棚田村 | |
| イメージ | 例えば ◎下記の予約獲得まで ●式典、写真撮影◎記念体験(田植え・餅つき一結婚式での餅まき)、 ●食事・食材(お米、アメゴ、アズキ→糠からばた餅)◎引き出物、 棚田米(天日乾し)、お茶、お酒、その他◎料理(ケイタリング・温泉連携ほか)、 ●飾り物:花、飾り◎宿泊(既宿泊施設)◎棚田地区の民泊・民宿 | 例えば ◎農村レストラン、食事 ◎農産物等の販売 ◎宿泊(既存施設) ◎宿泊 ●ライトアップ前の棚田体験プログラム ◎ライトアップツアー実施 ○地区内での民泊・民宿 ※関連アクティビティの追加開発、連携 | 例えば ◎木ねり種栗(地域課題)の体験販売、直接販売 ◎農産物等の販売 ◎食事提供 ●銀葉散策体験 ○地区内での民泊・民宿 ※関連アクティビティの追加開発、連携 | 例えば ◎棚田黒山体験 ◎食事提供 ◎農産物等の販売 ○地区内での民泊・民宿 ※関連アクティビティの追加開発、連携 H26年度(例) -糠からばたもち -ユコウナワー -お茶 | 例えば ◎木ねり種栗(地域課題)の体験販売、直接販売 ◎農産物等の販売 ◎食事提供 ●異常気象体験 ○地区内での民泊・民宿 ※関連アクティビティの追加開発、連携 | 例えば ◎棚田オーナー契約数の拡大 ◎食事提供 ●棚田黒山体験プログラム実施 ○農村レストラン整備 ○地区内での民泊・民宿 ○山の駅整備 ※関連アクティビティの追加開発、連携 | |
| H26予定 | 8・10月プログラム開発 11月募集チラシ等作成 12月募集スタート | 9月募集スタート ●10月18日ライトアップ試行実施 | 9月募集スタート ●11月29日オープンファーム試行実施 | 8月上旬募集スタート ●9月6日ノルディックウォーク試行実施 参加費 2000円 | 9月募集スタート ●10月19日オープンファーム試行実施 | ●10月募集スタート | |
| H27予定 | 試行実施 | 修正実施 | 修正実施 | 修正実施 | 修正実施 | 修正実施 | |
| ワークシ ョップ | ・第1回 H26年6月27日実施 ・第2回 H26年6月6日予定 ・第3回平成27年2月予定 | | | | | | |
| 個別ワーク シヨップ | ・棚田ウェディング : 第1回平成26年9月中旬開催予定、第2回平成26年11月開催予定 ・棚田アクティビティ: 第1回平成26年9月中旬開催予定、第2回平成26年12月開催予定 | | | | | | |
| ガイド養成 講座 | ・基礎ガイド資格取得講座(全4回)、高層での有償ガイドの実施を目標、参加費1000円～2000円 第1回8月25日、第2回9月6日、第3回10月19日、第4回11月30日 | | | | | | |

出所) 徳島大学上勝学舎 澤田客員教授資料から転載

②関係主体

徳島大学上勝学舎

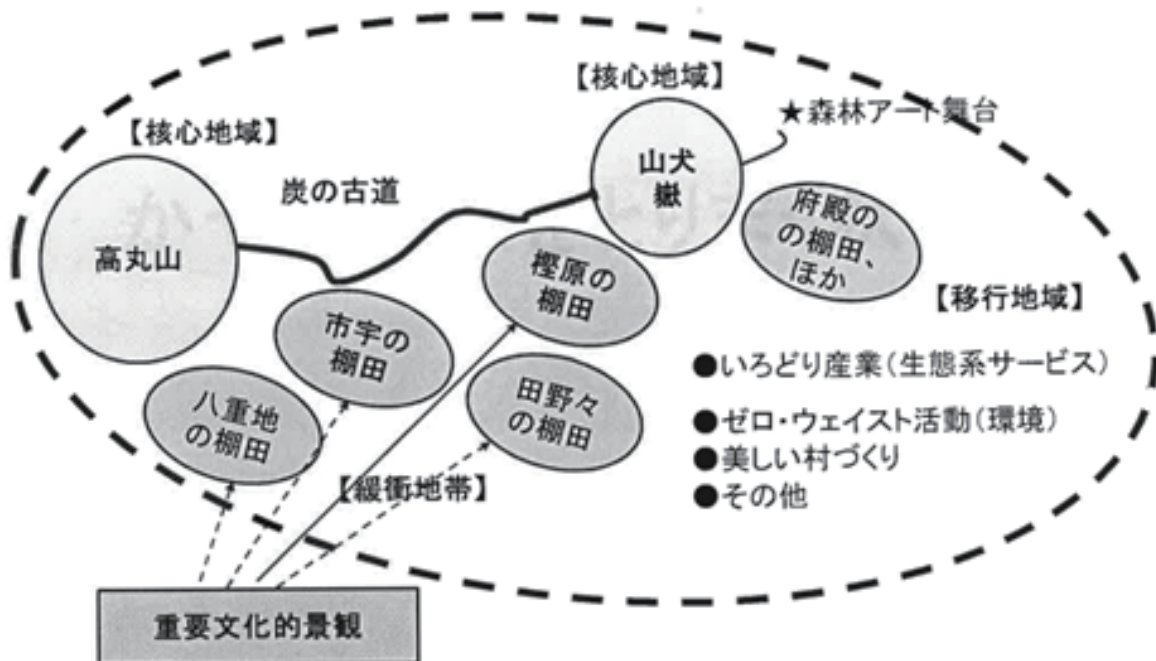
上勝町内 11 団体/交通機関(JAL・JR 四国)等 10 団体

③広報宣伝活動/今後の発展方向

上勝学舎便りやプログラム毎のパンフレットを作成しており、棚田を起点としてブランドづくりを進め、ユネスコ MAB (BR) エコパーク登録による更なる来訪者の増加を目指している。

今後の更なる発展には、上勝町の他の事業や県内等を含めた連携が必要である。

図表 2-17 上勝町におけるユネスコ MAB のイメージ
上勝町全体が範囲(保全、活用、教育)/教育は持続発展教育の観点



出所) 徳島大学上勝学舎 澤田客員教授資料から転載

(4) 上勝町の高丸山千年の森（森の再生事業）

図表 2-18 事例の概要

| | | | |
|----------|-----------------|------|-----------|
| 名称 | 高丸山千年の森（森の再生事業） | 主体 | かみかつ里山倶楽部 |
| 地区 | 上勝町 | 時期 | 通年事業 |
| 種別・事業タイプ | 萌芽事例・農山村応援系 | 事業進捗 | 発展段階 |

①事業内容

森の再生に向けて以下の事業を実施している。

○自然再生（森づくり事業）

隣接する高丸山の自然植生に近い形での植生回復を図るため、研究者によって導入が決定されたブナをはじめとする 32 種の樹木について、地元周辺で種子採集・育苗を図り、植林している。育苗はマルチキャビティコンテナを利用した特色ある栽培手法を導入している。

近年までは春・秋を中心に下草刈りと補植に追われていたが、最近はようやく安定化してきた。

○遊学の森（参加交流事業）

高丸山千年の森の中に「遊学の森」のゾーンを形成し、森づくりに参加するグループで自主的森づくり活動の場としている。現在、29 の企業や団体が参加し、2011 年で延べ 512 名が参加している。

○新たな指導者の育成（環境教育事業）

県民の森づくり活動への参加の高まり、企業の森づくり活動の増加、次代を担う子ども達への森林環境教育の促進を背景に新たな指導者を養成する「徳島県森林づくりリーダー養成講座」を実施している。

○高等教育機関との連携（その他の事業）

森林総合研究所（全国組織）や大学とのコラボレーションで事業を推進している。大学の研究者は四国から近畿へと広がり、鳥取大学や大阪大学なども来訪している。

森づくりは 50 年のサイクルであり、最初の 10 年は手間がかかる。年 1～2 回のイベントに参加を呼び掛けている。

なお、高丸山千年の森は、生態学会の自然再生モデルの全国 16 事例に小笠原、釧路湿原、屋久島などと並んで紹介されている。

図表 2-19 高丸山千年の森（右は整備概念図，左は基幹施設のふれあい館）



図表 2-20 高丸山千年の森ふれあい館の年間教育メニューの例（平成 24 年度のメニュー）



出所) 高丸山千年の森の資料から転載

②関係主体

徳島大学、かみかつ里山倶楽部(株)かみかついっきゅう・(株)もくさん・NPO 法人郷の元気・(有)環境とまちづくり・ハーモニーライフクラブ旭・上勝林友会・勝浦川若手林業研究会・上勝自然学習研究会・上勝なでしこ愛林会・勝浦川流域ネットワーク)

③広報宣伝活動／今後の発展方向

経済林として杉などを植林する部分と、水源林として広葉樹に樹種転換を図る部分がある。神山町の森林公園でも似たような取組があり、連携が考えられる。

④交通アクセス等の課題

公共交通機関は町営バスのみであり、徳島阿波おどり空港からのダイレクトアクセスはない。

森林の再生事業等については、個人が土地を持っており、これを管理するための支援があれば、伐採し、管理が可能となる。また、興味を持っているボランティアやIターン希望者を顕在化させ伐採等の技術を学ぶ機会や仕組みも必要である。

(5) 那賀町のリグノフェノール精製事業、液体燃料化実証実験

図表 2-21 事例の概要

| | | | |
|--------------|---------------------------|------|------|
| 名称 | リグノフェノール精製事業 液体燃料化実証実験 | 主体 | 那賀町 |
| 地区 | 那賀町 | 時期 | 通年事業 |
| 種別・ 事業タイプ | 萌芽事例・新規ビジネス系 | 事業進捗 | 萌芽段階 |

①事業内容

実証試験施設では、ウッドプラスチック（WPC）を製造するための原料となるリグノフェノールを木質バイオマスから精製し、生産することができる。リグノフェノールを精製するバイオマスプラントは、機器のリース料が約1千万円/年、稼働させるコストが約300万円/月であり、2人が2週間で原料3kgからリグノフェノール1kgを精製できる。

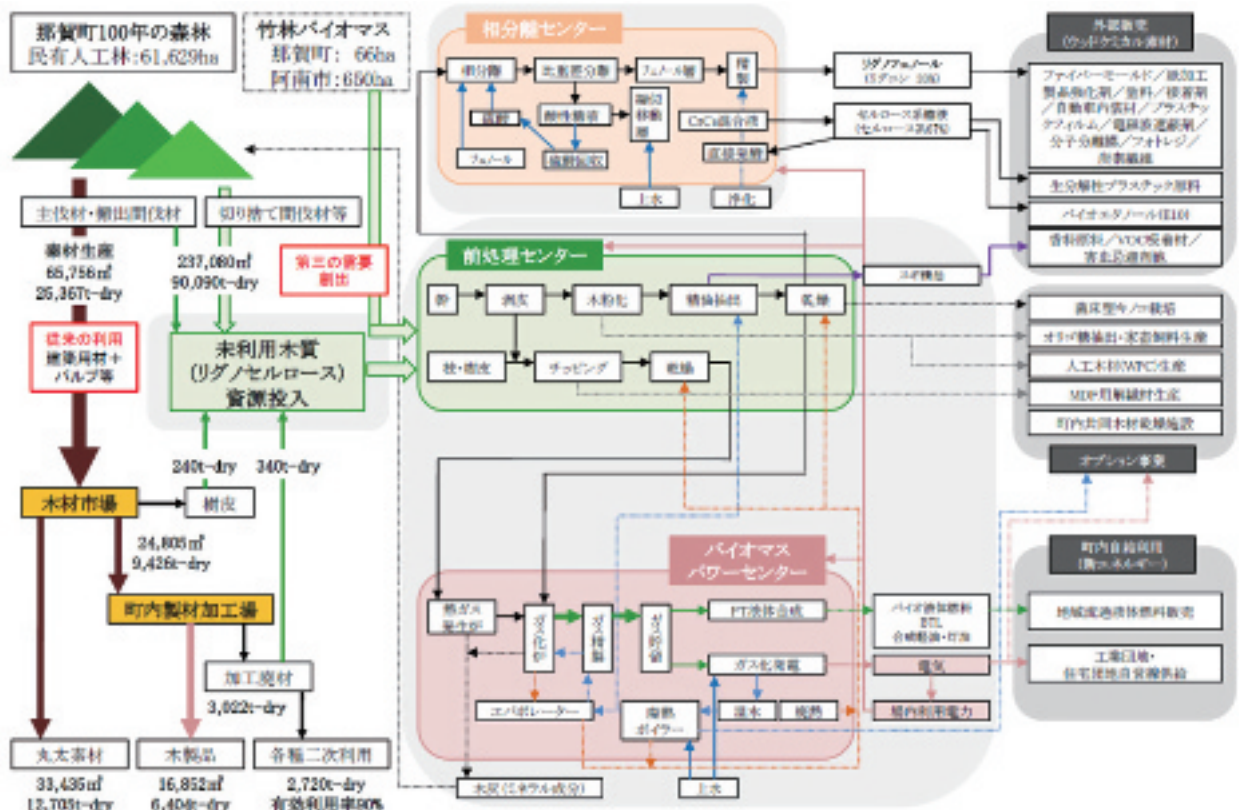
年間におよそ100人程度の視察があり、現在の体制では月に2回、対応する人員の配置によっては週に2回まで対応可能であるが、1回（所要時間は1時間程度）の受入れについては、35～40人程度が限界である。

図表 2-22 リグノフェノール精製事業・液体燃料化実証実験



出所) 野村総合研究所が現地で撮影

図表 2-23 那賀町におけるバイオマス利用構想の概念図



出所) 那賀町資料から抜粋

②関係主体

三重大学 (船岡教授), 那賀ウッド, 徳島大学

※那賀町では, 大学・企業と連携した形でこれまでに様々な研究・実証試験の採択実績を誇る。

- ◇経済産業省 低炭素社会に向けた技術シーズ発掘・社会システム実証モデル事業 (H20-21)
- ◇総務省・徳島県「緑の分権改革」推進事業 (H21-22)
- ◇環境省 地球温暖化対策技術開発・実証研究事業 (H23-24)

③広報宣伝活動／今後の発展方向

これまでの行政機関に加えて, 商業ベースで企業の視察がある。現在, 見学料は徴収していないが, 以前 (H23 年度・H24 年度) は 1,000 円徴収していた。

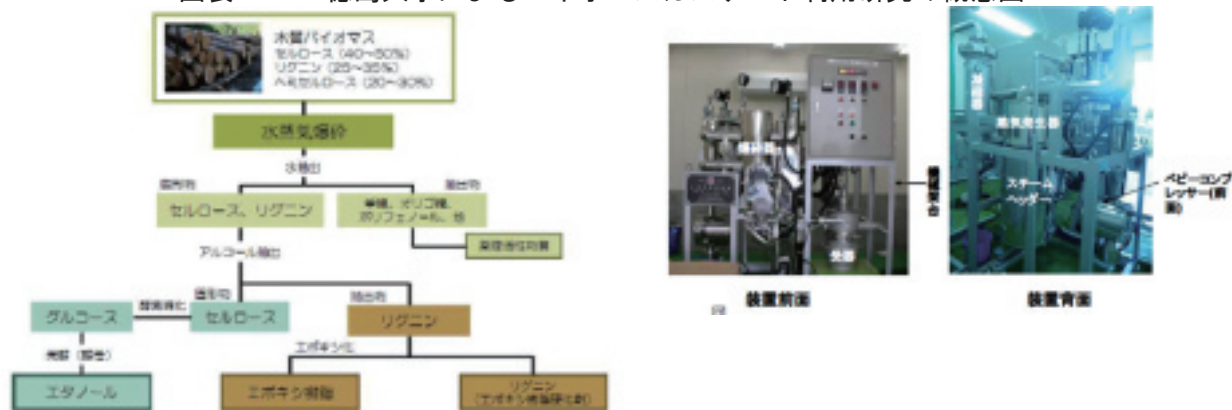
那賀町では, 現在小水力発電についても導入に向けた取組を進めており, これらと連携した研究誘致や研修企画の立案が有望である。

- ◇徳島県 地域グリーンニューディールコア事業 (H24) のうち小水力発電調査
- ◇環境省 地域の技術シーズを活用した再エネ・省エネ対策フィージビリティ調査事業 (H23)

木質バイオマスのカスケード利用は, セルロース系(紙)・リグノフェノール系(脂)・熱利用系(ボイラー・タービン)の3分野の研究者・技術者の協業が必要である。今後はこうした各分野の研究者及び研究施設の招致も大きな課題となってくる。例えば地元の徳島大学にはセルロース系の研究者

が在籍しているほか、隣接する阿南市の製紙会社もこうしたリグノフェノールの有効利用研究には関心を示している。

図表 2-24 徳島大学によるバイオマスカスケード利用研究の概念図



出所) 徳島大学(2013)資料から転載

④交通アクセス等の課題

徳島阿波おどり空港からのダイレクトアクセスはなく、那賀町行の乗合バスの便数が少ない上に、実証試験設備までは公共交通機関自体がないことから、今後、現行の事業を発展させるに当たり必要と考えられる研修実施や共同研究の誘致には、タクシーなど何らかのアクセス手法を整えることが課題である。

視察については、受入体制を高めると2回/週×40人×52週=4,160人/年程度までは対応可能であるが、それ以上は人材が不足するため、人材の確保が課題となる。

(6) 那賀町の四季美谷温泉ジビエ料理

図表 2-25 事例の概要

| | | | |
|----------|--------------|------|--------|
| 名称 | 四季美谷温泉ジビエ料理 | 主体 | 四季美谷温泉 |
| 地区 | 那賀町 | 時期 | 通年事業 |
| 種別・事業タイプ | 萌芽事例・新規ビジネス系 | 事業進捗 | 萌芽段階 |

①事業内容

害獣である鹿の処理加工施設が「徳島県シカ肉・イノシシ肉処理衛生管理ガイドライン」に則して那賀町に設置され、当該施設で処理された鹿肉を使用したジビエ料理が四季美谷温泉で提供されている。四季美谷温泉で提供される数々の鹿肉料理は、料理長が日本人の味覚にあうジビエを目指し、鹿肉は硬さや臭さを克服する血抜き等の工夫を施し、味噌や醤油といった和食テイストのメニューを考案している。なお、処理施設では140頭/年の鹿が処理され、そのうち138頭/年が四季美谷温泉で消費されている。県内では約7,600頭/年の鹿が捕獲されているが、このうち僅か150頭

／年が県内消費であり、ほとんどが四季美谷での消費である。ジビエのプロセスとしては1) 捕獲、2) 解体、3) 調理、4) 販売というプロセスになる。新規メニュー開発やジビエフェスタの実施等の努力により四季美谷温泉は対前年売上32%増となった。

四季美谷温泉は宿泊が9部屋で40～45人が収容可能であり、畳の大広間であれば、20人位は宿泊できる。

図表 2-26 鹿の加工処理施設の状況



出所) 四季美谷温泉資料から転載

図表 2-27 四季美谷温泉のジビエ料理



出所) 四季美谷温泉資料から転載

②関係主体

那賀町，徳島県(鹿肉加工・製品化)

③広報宣伝活動／今後の発展方向

四季美谷温泉の支配人による地下足袋王子ブログでの情報発信
(<http://shikibidanionsen.blog17.fc2.com/>)

ジビエ料理の普及のために研修

ジビエ料理を加工食品として販売（現時点では鹿肉を 50%以下にしている。）

④交通アクセス等の課題

徳島阿波おどり空港からのダイレクトアクセスはなく，公共交通機関を利用する場合は，徳島駅から乗換が 2 回必要となる。

ジビエ商品の販売については，鹿肉 50%以上の加工食品を製造・販売するには薬剤師か獣医師の配置が必要となるため人材の確保が課題となる。

(7) 剣山南嶺におけるネオツーリズムの誘致

図表 2-28 事例の概要

| | | | |
|----------|---------------|------|--------|
| 名称 | 剣山の山歩き | 主体 | 四季美谷温泉 |
| 地区 | 那賀町 | 時期 | 通年事業 |
| 種別・事業タイプ | 先進事例・体験ツーリズム系 | 事業進捗 | 発展段階 |

①事業内容

ア) 山と花と温泉シリーズツアー(エコツーリズム)

毎週日曜に実施している山歩きは平成 17(2005)年 5 月にスタートして 416 回(調査当時)となる。剣山スーパー林道を使うと標高 1,500m まで車で送迎をし，送迎地点から山歩きを開始する。通常は朝 6 時に徳島駅に迎えに行き，四季美谷温泉を 8 時に出発し，15～16 時には戻ってくる。毎年 52 回を目標にしているが，天候で中止も稀にある。おおよそ 1 回で 15～20 人（この内 5～6 人は毎回来ている）の参加があり，現在のガイドスタッフでの参加者の受入定員は 30 名位である。安全面に配慮すると 5～6 人に 1 人はガイドが必要である。参加者は基本的に県内の方である。山歩きは秋の時期にマイタケ等の天然のキノコ類が収穫できる。

図表 2-29 山と花と温泉シリーズツアー



出所) 四季美谷温泉資料から転載

その他、本来は閑散期である冬季の登山客の集客を図るため、西南日本では形成されることが珍しいとされる樹氷を売り物にした企画を立ち上げることで、一年を通じて登山客・宿泊客の確保を図るようにしている。

図表 2-30 きさわ四季美谷温泉樹氷まつり(最大催行定員 50 名)



出所) 四季美谷温泉 平井支配人資料から転載

イ) スポーツツーリズムの誘致

その他にも山フェス南つるぎスカイルート(4つのルート, 4つのグループで山頂合流する企画), 親子ふれあい登山(親子に対する環境教育), トレイルラン(県内外から175人程度参加※今年度は中止), つるぎのめぐみワイルドウォーク(エントリー数240名), マウンテンマラソン(ショート: 75名程度/ロング: 100名以上)等のスポーツツーリズムイベントを企画・実施している。

平成27(2015)年の剣山スーパー林道マウンテンマラソンでは参加選手175名, ワイルドウォーク0→1955においては240名の選手参加を予定している(取材当時)。

図表 2-31 スポーツイベントの事例



出所) 四季美谷温泉資料から転載

②関係主体

南つるぎ地域活性化協議会(NPO 法人剣山クラブ・NPO 法人三嶺の自然を守る会・徳島県山岳連盟・徳島県勤労者山岳連盟・徳島県山岳連盟徳島山の会・木沢まちづくり協議会・(株)四季美谷温泉・徳島森林管理署・那賀町・徳島県(自然環境戦略課・徳島県南部総合県民局))

③広報宣伝活動／今後の発展方向

支配人による地下足袋王子ブログで情報を発信している。

(<http://shikibidanionsen.blog17.fc2.com/>)

山歩きのエコツアーでは、全体として4K(観光, 環境, 健康, 経済)を目指している。

④交通アクセス等の課題

路線バスは1日2便, 徳島駅からの接続があるが, 乗換が2回必要となるため, 県外客の利用が不便な状況にある。現在, 徳島阿波おどり空港からのダイレクトアクセスはなく, 温泉からのバス送迎については, 経費・人員の双方で継続に課題がある。

また, 地理, 動植物及び自然公園に関する知識, 登山技術を兼ね備えた山岳ガイド等の確保等も課題である。

(8) とくしま絆の森／とくしま協働の森

図表 2-32 事例の概要

| 名称 | とくしま絆の森, とくしま協働の森 | 主体 | 徳島森林づくり推進機構 |
|----------|-------------------|------|-------------|
| 地区 | 徳島県山間部各所 | 時期 | 通年事業 |
| 種別・事業タイプ | 萌芽事例・農山村応援系 | 事業進捗 | 萌芽段階 |

①事業内容

ア) とくしま絆の森クレジット(J-VER)

徳島県内に点在する森林の維持管理のために11団地1,800haを取得し, カーボンオフセットクレジット(J-VER)の認証を取得し, これを販売することでスタート。1,647t・CO₂の内, 1,165t・CO₂が販売された。この資金を元に平成19年度から平成21年度までに約72haの間伐を実施した。このクレジットは徳島阿波おどり空港の催事でのカーボン・オフセットにも用いられている。

図表 2-33 とくしま絆の森クレジットの概要

徳島県林業公社

とくしま絆の森クレジットのご案内

林業公社は、森林を活用したカーボン・オフセットを推進するため、モデル的にカーボンオフセットクレジット(J-VER)の認証を取得しました。この度、取得したJ-VERを販売します。

※とくしま絆の森:六丁目浦山社有林

J-VERの特徴

- ◆ 環境省J-VER制度で認証されたカーボンオフセット・クレジット
- ◆ 林業公社所有の「とくしま絆の森」から生まれたクレジット
- ◆ 間伐プロジェクトで森林が吸収したCO₂をクレジット化
- ◆ 約1200 t-CO₂のクレジットが発行済みで販売可能
- ◆ 地球温暖化対策の推進に関する法律で定める事業者の温室効果ガス排出量削減の理め合わせに使用可能

販売の目的

整備されていない民有林を公有林「とくしま絆の森」の取得費用に充て、水源かん養など公益的機能を発揮する「流域モデル林」を整備して参ります。

間伐プロジェクトの概要

- ・事業内容: 平成19年度から平成21年度までに約72haの間伐を実施
- ・実施場所: 徳島県那賀町内のとくしま絆の森 六丁目浦山、御朱印谷山
- ・J-VER発销量: 約1200 t-CO₂

徳島県那賀町
六丁目浦山
御朱印谷山

出所) 徳島森林づくり推進機構資料から転載

図表 2-34 クレジットの使用事例(無効化 CO₂ 量: 24t-CO₂)

カーボンオフセット証明書

徳島空港利用促進協議会様

オフセット対象: 那賀郡那賀町徳島県産のカーボンオフセット
 オフセットの内容: 1000kgに相当する炭素削減による炭素削減
 対象となる期間: 2019年10月1日～2021年9月30日
 対象となる地域: 徳島県那賀郡那賀町徳島県産のカーボンオフセット
 対象となる森林: 徳島県那賀郡那賀町徳島県産のカーボンオフセット
 対象となる森林種別: 雑木林(雑木林)

発行情報: J-VER
 発行機関: 徳島県林業公社
 プロジェクト名: 徳島県那賀郡那賀町徳島県産のカーボンオフセット
 発行数量: 約1200 t-CO₂
 発行日: 2021年9月30日

発行情報: 国内クレジット
 発行機関: 国土交通省
 プロジェクト名: 徳島県那賀郡那賀町徳島県産のカーボンオフセット
 発行数量: 約1200 t-CO₂
 発行日: 2021年9月30日

発行情報: 国際クレジット
 発行機関: 国際クレジットセンター
 プロジェクト名: 徳島県那賀郡那賀町徳島県産のカーボンオフセット
 発行数量: 約1200 t-CO₂
 発行日: 2021年9月30日

CO₂削減量 **23,139 kg CO₂**

CO₂無効化量 **24,000 kg CO₂**

この証明書は、本協議会が発行する「とくしま絆の森」から生まれたクレジットを、貴会様の航空機利用に使用することを証明しています。クレジットは、航空機利用に使用された分だけ、自動的に無効化されます。

2021年9月30日
 カーボンオフセット推進協議会
 代表取締役
中西 武志

140/071 00/02

イ) とくしま協働の森事業(寄付・ボランティア受入れ)

とくしま協働の森は、企業と徳島県、徳島森林づくり推進機構の3者でパートナーシップ協定を締結し、徳島森林づくり推進機構と森林所有者とは森林管理受託契約を結ぶ仕組みである。森林整備団地と環境林整備の2タイプがあり、現段階では企業は県内に事業所が所在することを条件にしている。現在、105企業・団体が参加し、その面積は約415haとなっている。イベントを実施しているが、安全管理等で事前準備に時間を要するため、準備から実施まで数カ月かかる。

機構で開催するイベント等への参加者については、森林に親しみを持ってもらえることを主旨としており、担い手育成や集客増加は、現時点では目的としておらず、担い手不足の解消については、機械の導入を検討している。

図表 2-35 とくしま絆の森, とくしま協働の森



出所) 徳島森林づくり推進機構資料から転載

②関係主体

航空会社(カーボン・オフセット、企業研修)を含む寄付団体

徳島空港利便性向上協議会/徳島空港利用促進協議会

③広報宣伝活動/今後の発展方向

事業運営に係る資金確保については、パンフレット等の作成や県内企業への営業活動を継続して実施する。森林ボランティア活動以外には、旅客第三需要創出や航空貨物需要創出など航空関係の催事への活用も検討する。

④交通アクセス等の課題

森林管理のための施業箇所は年によって変わる。

県外企業への営業活動については、企業所在地でなく、徳島県で環境事業に関わる理屈付けをできないと難しいことが課題としてある。

(9) にし阿波における体験教育・視察研修ツーリズム

図表 2-36 事例の概要

| | | | |
|----------|---------------|------|-------------|
| 名称 | そらの郷山里物語 | 主体 | 一般社団法人 そらの郷 |
| 地区 | にし阿波観光圏（2市2町） | 時期 | 通年事業 |
| 種別・事業タイプ | 先進事例・体験ツーリズム系 | 事業進捗 | 発展段階 |

①事業内容

修学旅行の受入れにおいては、主に農家に分宿してもらい、コンテンツの体験をすることに加えて、地元の方や幅広い世代の方との交流を通じて、コミュニケーション力向上を目的としている。受入れの現状規模は4,000人/年で、関東と関西からの来訪が中心である。県が協議会の事務局を務めるプラットフォーム事業の対象となり、企業や外国人の受入れ準備を開始しているところである。

パンフレットに掲載されている体験事業のコンテンツについては、各受入れ農家が体験時期の気候等を考慮しながら得意なものを提供している。受入れ終了後には、受入れ農家に対してアンケートを実施、学生の反応や今後のコンテンツの提案等を聞き取り、コンテンツを充実させてきた。特別な体験内容は考えず、あくまでも日常生活の中で提供可能なものを実施している。併せて、受入れ農家が情報交換を行う機会も設け、体験内容の充実を図っている。なお、専業農家の多くは受入れを行っておらず、受入れは、比較的小規模な農家が多いのが現状である。また、宿泊者を最寄駅（大歩危駅）まで迎えに行く農家もある。林業体験については、インストラクターが経験豊富で、体験する人に応じて柔軟な対応が可能である。体験としては、下草刈り作業が一番簡単である。規模は大きくないが、公園が多くあり、それらの公園の刈り込み等を行うこともある。今年は体験として公園のアジサイの刈り込みをしてもらった。木の伐採でも竹であれば性別や体力に関係なく体験可能である。また、共同管理を行っている水源地の整備も行っている。

視察研修は、主に企業がイメージアップのためにボランティアとして参加することから、アジサイの刈り込み体験等の成果が見える体験事業を提供できるよう心掛けている。CSRの参加者は、年齢層が比較的若く、修学旅行等の教育旅行と同様に刈り込み作業等の戦力となる。今後、CSR活動での誘致は、まず行政関係者から行う方針とみられる。ただし、修学旅行客の受入れが多く見込める時期もあるが、これを労働力として期待しているわけではない。

当該地域の来訪者は、かずら橋が一番多く、平成25(2013)年には32万9千人であった。

図表 2-37 そらの郷山里物語の体験ツーリズム
農業体験 料理体験



林業体験



ラフティング体験



カヤック体験



うだつの町並み散策



出所) そらの郷山里物語 HP から転載

図表 2-38 そらの郷山里物語の農業体験カレンダー

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| タラの芽 | | | | | | | | | | | | |
| そらまめ | | | | | | | | | | | | |
| じゃがいも | | | | | | | | | | | | |
| たまねぎ | | | | | | | | | | | | |
| ピーマン | | | | | | | | | | | | |
| 米 | | | | | | | | | | | | |
| そば 米 | | | | | | | | | | | | |
| 茶 | | | | | | | | | | | | |
| 栗 | | | | | | | | | | | | |
| 柿 | | | | | | | | | | | | |
| すだち | | | | | | | | | | | | |
| はっさく | | | | | | | | | | | | |
| いちご | | | | | | | | | | | | |
| トマト | | | | | | | | | | | | |
| さつまいも | | | | | | | | | | | | |
| 椎 茸 | | | | | | | | | | | | |
| たけのこ | | | | | | | | | | | | |
| ゆず | | | | | | | | | | | | |

出所) そらの郷山里物語 HP から転載

②関係主体

そらの郷山里物語協議会(三好市・東みよし町・西井川林業クラブ・国重要伝統的建造物群保存地区協議会・道の駅「三野」・空音遊・馬路夢いっぱい会・コミュニティ祖谷・紅葉の郷夢工房・大川持農林業体験施設)、地域内の農家 等

そらの郷山里物語協議会は、平成 10(1998)年から行政が実施してきた「農山村生活体験交流事業」を引き継ぎ、体験者の多様な要望に応えられる充実した組織として設立された。現在受入れを行っている農山村生活体験では、都会の生徒を各家庭に 3~6 人民泊させ、地元の生活全般を体験してもらっている。

③広報宣伝活動／今後の発展方向

従来から旅行代理店を通じての広報宣伝活動に注力してきており、現時点では、旅行代理店を介さない営業活動は検討していない。旅行代理店においては、法人旅行と教育旅行の営業は一体となっていることが多く、そらの郷としては営業活動がしやすい。ホームページは個人旅行者に焦点を絞り運営している。

海外からの集客については、口コミの影響が大きいので、外国人客の利用が多い大都市の安価な宿泊施設への情報提供も有効と考えられる。

④交通アクセス等の課題

教育旅行の域内移動はおおむねバスである。県外からの来訪の例として、埼玉県から高校生 300 人が来訪した際は、航空機は 3 便に分乗して、空港（高松 2 便、徳島 1 便）も 2 カ所を利用していたものであった。この場合も空港到着後の移動手段は、貸切りバスである。

JR は土讃線（徳島～阿波池田）の 5 両編成で、指定席は 1 両半で 70 人程度と想定され、一般的に CSR 体験に係る来訪は大人数ではないので、現行の便数のまま車両編成等の対応で可能な範囲と考られる。

一般の宿泊客の 2 次交通は課題であり、過去には川尻への霧見学ツアーや奥祖谷へのツアーをタクシー会社の協力を得て企画したことがあったが、価格設定等の調整が難しく継続した事業には至らなかった。また、旅行形態としては、琴平でのうどん打ちとセットになっている場合が多く、金毘羅さんとのセットが圧倒的に多い。100 人を超えるような団体の受入れは難しく、ラフティングなど体験できるものが限定されるが、数十人であればいろいろなアレンジが可能である。

埼玉県からの来訪の例に挙げられるように、来訪する目的地で利用する空港は異なる。主な利用空港は、高松と徳島であるが、広島が利用される場合もある。このことから、域内での集客だけでなく、県外流出を避けるような取組が課題であり、阿波おどり会館や鳴門の美術館との連携が考えられる。

ビッグウィル等の新規事業の視察受入れについては、現時点では、コスト設定で課題があり、仮に送迎を行う場合には、ワゴン車の乗車定員程度の受入れ数が良いと考えられる。今後、高齢者や障がい者の受入れも円滑に実施できるように介護タクシーの保有も検討している。

(10) 天然木極薄ツキ板連続シート及び関連商品の製造販売事業

図表 2-39 事例の概要

| | | | |
|----------|-------------------|------|------------|
| 名称 | 「恋樹百景」及び「樹の紙」シリーズ | 主体 | 株式会社ビッグウィル |
| 地区 | 徳島県三好郡東みよし町 | 時期 | 通年事業 |
| 種別・事業タイプ | 萌芽事例・新規ビジネス系 | 事業進捗 | 萌芽段階 |

①事業内容

技術的に難しい天然木を活用した極薄ツキ板連続シートを開発し、不燃性の壁紙「恋樹百景」や、折っても割れない「樹の紙」関連商品の製造販売を行っている。加工する原材料は最も固い黒檀にも対応可能である。しかし厚さは 300 ミクロンで技術も高いものが必要となる。

加工は、1本の木から対応しており、折れてしまった御神木や廃校になる小学校の思い出の樹等も再加工によって新たな命が吹き込まれなど、従来にない商品製造が可能である。基本的には素材メーカーであり、素材を販売するためにテスト的に商品を開発し、販売している。

図表 2-40 「恋樹百景」及び「樹の紙」シリーズ



出所) 株式会社ビッグウィル パンフレットから転載

②関係主体

特になし

③広報宣伝活動／今後の発展方向

広報宣伝用の商品を作成し広報宣伝活動を行っている。

今後の取組としては、不燃に係る認可は、電車は認可済みであり、次は船を目指し、その次は航空機と認可の難しいものにも取り組んでいくことを考えている。

現在は、2億円／年程度の売上で、設計会社からの発注が多い。来年、中国で2億円／年程度の物流が始まる予定で、壁紙を主流として2億円／年程度の売上を新たに見込んでいる。ドアメーカー、壁紙メーカー、ふすまメーカー、棺桶メーカー、車両メーカーからの引き合いもある。

新工場建設に当たり、近隣にある公共施設（東みよし町東部福祉センター）の1階を事務所として活用する予定である。工場が出来上がった段階で、今は2万㎡／月、新工場稼働で5万㎡／20

日(7時間), 次のステップでは10万m²/月を予定している(30kg ロール巻。直径40cm 630mm×150~200m)。来年は中国に進出するほか, アメリカの展示会やEUの展示会にも出展する予定である。

当社の素材を使った新しい商品や事業へ協力, 地元への協力企業の進出等は大歓迎と考えており, 将来的には現在のメンバーが新たな事業を実施し, その上に事業を束ねる企画・営業機能を持つ会社を作ることも考えている。

また, 会社では, 森の学校を開設しており, ログハウスが9棟とセンターハウスを備えている。運営するNPOに貸してほしいとお願いしている。50名程の受け入れが可能であり, カリキュラムを実施するため, 地元住民を中心とした各種講師や管理者などが揃っている。しかし, 半日単位でのカリキュラム編成では, 地元の人々の参画は難しいため, 1時間単位などでの対応も考えている。企業のCSRや大学の受入れを念頭に入れ, 地域資源を活用したビッグウィルの事業構想等を有機的に学習できるプログラムを準備している。

(11) 落合集落の古民家等を活用した山里体験事業

図表 2-41 事例の概要

| | | | |
|----------|-----------------|------|-------------------------|
| 名称 | 桃源郷祖谷の山里 (落合集落) | 主体 | 特定非営利活動法人 籠庵トラスト (運営管理) |
| 地区 | 徳島県三好市山里 | 時期 | 通年事業 |
| 種別・事業タイプ | 萌芽事例・新規ビジネス系 | 事業進捗 | 萌芽段階 |

①事業内容

江戸時代の古民家が点在する落合集落は, 国の重要伝統的建造群保存地区に指定されている。この資産を活かすべく, 現在も集落で生活している地元住民に案内人を務めてもらう事業を実施した。案内人から昔からの急斜面での農業のあり方や村の風習を学ぶこともでき(落合集落全体をおおよそ1時間程度で案内), ほかに, 古民家を利用した宿泊事業も実施しており, そば打ち体験など独自の山里体験プログラムも提供している。

落合集落は, 750m×850mで面積が約32.3haの敷地, 人口は約100人, 往時は400人であり, 周辺も合わせると, 現在は東祖谷全体で1,500人, 往時は8,000人が生活していた。1780年に建設された古民家に今も居住者がおり, 茅葺屋根(現在は痛まないように覆っている)に土塀とそれを覆うひしゃぎ竹が特徴である。また, 算木積みの石垣が至るところにある。石垣の角に直方体の長めの石を細やかに積み, 強度を持たせる方式で維持している。現在も年3回の祭を開催(3, 6, 8月)しており, 往時の風習が偲ばれる集落である。

図表 2-42 東祖谷落合集落



出所) 東祖谷落合集落探訪マップから転載

②関係主体

三好市山里の落合集落在住者

③広報宣伝活動／今後の発展方向

特定非営利活動法人 簾庵トラストのHP (<http://chiiori.org/>)

交通インフラの関係等から都会の便利な生活とは異なる体験ができ、そこで生活するための知恵が学べる。人間力を高める研修などに向いていると考えられる。

④交通アクセス等の課題

域内交通，2次交通ともに不便である。道路も狭小部分がアクセス道路に多々あり，域内は狭小道路のみとなっている。

(12) 四国酒まつり・うだつマルシェ

図表 2-43 事例の概要

| | | | |
|----------|----------------|------|--------------------------------------|
| 名称 | 四国酒まつり・うだつマルシェ | 主体 | 阿波池田商工会議所，青年会議所・うだつマルシェ実行委員会 |
| 地区 | 阿波池田駅周辺 | 時期 | 年1回（1日間）のイベント（2月） （うだつマルシェは不定期開催） |
| 種別・事業タイプ | 萌芽事例・新規ビジネス系 | 事業進捗 | 萌芽段階 |

①事業内容

ア) 四国酒まつり

酒蔵の見学は無料で実施し，蔵人から直接説明を受け無料で新酒を試飲できる。人数限定でお土産としてワンカップや酒粕の無料配布を実施している。試飲会場が2,000人，酒蔵と合わせて5,000人程度の人を訪れる。イベント会場（40銘柄出品）は延べで15,000人の来訪がある。

運営は，商工会議所で約50名の人員を確保し，それ以外は協賛団体イベントを掛け持ちしながら実施している。イベントの来訪者にアンケートを実施したところ，回答者5人に1人に景品が当たるようにしていることから50%以上の回答が得られた。アンケートのサンプル数は企業にとって魅力的であり，企業が試供品としてチーズを提供してくれた実績もある。

なお，第16回（平成27（2015）年2月）からは，地域連携を推進する大学COC事業の一環として四国大学生生活科学部がアンケート実施を，また徳島県・徳島空港利用促進協議会が空港利用促進ブースの運営を行ったところである。

図表 2-44 第16回四国酒まつりの様子（平成27（2015）年2月：四国大学生生活科学部提供）



図表 2-45 第 16 回四国酒まつり



出所)「四国酒まつり HP」から転載

イ) うだつマルシェ

「うだつマルシェ」は、三好市近隣の作り手の”おいしいもの”や”すてきな雑貨”を集めたマーケットであり、不定期に開催し、作り手との会話と、うだつ（隣家との境界に取り付けられた土造りの防火壁）の残る町並みウォーキングを様々な方に楽しんでもらうように、うだつマルシェ実行委員会が企画している。

これまでに第 1 回（平成 23(2011)年 2 月 26 日）から第 12 回（平成 27(2015)年 2 月 12 日）まで開催されており、第 1 回と第 3 回、第 7 回、第 10 回、第 12 回は「四国酒まつり」と同時開催している。

図表 2-46 うだつマルシェの様子



図表 2-47 うだつマルシェの出店要領

| | |
|---|---|
| <p>【参加費とブースについて】 机1つサイズもしくは、テントを持参した場合はテント1つ (2.5m×2.5m以内)の出店サイズ 当日場所の都合で屋内になった場合は机2つ(180cm×45cmを2個) ほどのサイズ</p> <p>①雑貨／保健所で許可を受けた施設で作った食べ物の出店の場合 机1つ 180cm×45cm 1000円 テント持参(2.5m×2.5m以内のみ) 2,000円 テントは1つまで ※) 机の貸し出しは追加で1000円。 ※) 水道、電気を使う場合は、追加で1000円</p> <p>②当日サーブする食べ物の出店の場合 机1つ 180cm×45cm 3,000円(保健所登録の手数料込) 露天商の方は保健所で登録したテント持参(2.5m×2.5m以内のみ) 2,000円 ※) 机の貸し出しは追加で1000円 ※) 水道、電気を使う場合は、追加で1000円 ※) 酒類を瓶・缶のまま販売するのは税務署登録の必要がある為禁止 ※) 当日小分けする酒類販売の場合は、税務署登録は不要</p> | <p>【出展可能なものについて】</p> <p>★雑貨 ・手作りのもの・骨董・特産品・ 独自で仕入れをしたもの ※) 転売は不可。 ※) フリーマーケットのような自宅の不用品の 販売は不可。</p> <p>★食品 ・事前に保健所の営業許可を受け けている場所で製造された 物。 ・当日お皿やコップに入れて販 売する食品は以下のリンク先 のものに限り、かつ店主のど なたかが食品衛生責任者の資 格を持っていること。 ※) 米を提供する場合は、露天の許可 を持っている方もしくは許可施 設でパック詰めをしてきたもの しか受付できません</p> <p><後略></p> |
|---|---|

出所) うだつマルシェのHPから転載

②関係主体

三好市・みよし地域商工団体連合会・(公社)池田法人会、酒蔵(三好市内で4か所)・連携商店、四国大学

③広報宣伝活動／今後の発展方向

ア) 四国酒まつり

JR四国にチケット販売等の対応を依頼している。特に他の宣伝はしていないが、徳島市内、高松市内、新居浜からバスツアー等を企画して来訪している。大歩危・祖谷いってみる会とのコラボレーションを実施している。会場が手狭なため新しく駅前の収容規模の大きい施設を借りる予定であり、キャパシティは5,000人以上に倍増する。来場者の増加に伴い、海外からの来訪者も増えてきている。増加の要因としては、ラフティング関連のロコミが多いと考えられる。来訪者に対応する通訳の確保が課題である。

酒蔵の見学を不定期に実施しており、生涯学習サークル等での来訪があるが、イベント以外に常時人が来てくれるかは不明である。

現在、大阪のお酒のイベントには参加しているが、今後首都圏向けのイベントに参加するかは未検討である。輸出を検討している酒蔵もある。

なお、第16回四国酒まつりから、四国大学生生活科学部によるイベントへの協力・連携が実現し、四国大学(アンケート作成・配布・分析)及び徳島県(協賛ブース展示)が参加することになった。

イ) うだつマルシェ

うだつマルシェ通信：「うだつマルシェ」の出展者やマルシェの行われている三好市の魅力を伝えていくためのフリーペーパーを年4回発行(予定)している。

④交通アクセス等の課題

域内は徒歩圏であるが、一か所の酒蔵は離れているためシャトルバスを運営している。昨年は、増便や増両でJRが来訪対応の協力を行っている。

ホームページが日本語のみとなっており、商工会議所内の職員では外国語対応ができないため、関係機関への協力要請及び調整が今後の課題となっている。

2日間実施するには現在の職員数では厳しい状況である。商工会議所の会員は経営者であるためイベント実施期間は自らの店舗の営業は休まなければならない。

(13) 閑散期の長期イベントを軸とした体験型ツーリズム

図表 2-48 事例の概要

| | | | |
|----------|-------------------------|------|---------------------|
| 名称 | 閑散期の長期イベントを軸とした体験型ツーリズム | 主体 | 牟岐町商工会・出羽島芸術祭実行委員会 |
| 地区 | 牟岐・海陽 | 時期 | 年1回(1月間)のイベント(2~3月) |
| 種別・事業タイプ | 萌芽事例・イベント系 | 事業進捗 | 萌芽段階 |

①事業内容

初回は出羽島のみを会場として、2回目は牟岐町の一部も入れて、牟岐アート展を実施した。

初回の予算は100万円で、5,000人の入場者数で500円/人の入場料で若干の赤字となった。出展場所は16カ所あり、初回はバラバラの出展場所で、出展者が自費で来て作品を出す形式とした。干物を作る機械や天草等の島内のものも展示の一環となった。2回目は作品づくりの一部については、一人10万円を徴収して行った。スポンサーは現在のところ特についてない。

現時点で出展される作品の評価の場とまでは考えておらず、既に制作された有名な作品も持ってくることも検討したが、有名な制作者の作品は保険が高いため断念した。

島内でロープワークのイベントを実施し、その売上は地元自治会に還元している。島の宿泊は民宿の2件で対応している。牟岐町内のボランティアにも手伝ってもらっている。土日のみではあるが、初回は島の婦人会の協力で島ソーメン等の飲食物を提供した。

出羽島アート展 2015 については、今回の調査に連動する形で、牟岐町商工会により、JAL・ANA 両社の協力を得て首都圏からの集客を図るため、先行して羽田空港東京モノレール改札口周辺でポスター展示(平成 27(2015)年 3 月 2 日まで)を実施している。

図表 2-49 出羽島アート展 2015 のポスター



出所) Tebajima・Mugi Art Exhibition の HP から転載

② 関係主体

出展芸術家・出羽島の島民 等

③ 広報宣伝活動／今後の発展方向

県外の美術館、大学等に合計 600 枚のポスターを配布した。

住民参加の作品が3回目には出展予定となっている。

最終的にはアートへの来場者で10万人、そのうち、1万人の宿泊を目指している。そのためには他の体験型ツーリズムと組み合わせて、来年度（4回目）は海陽町にも範囲を広げたいと考えている。周辺自治体に経済面の波及効果も期待している。広域の交流としてボランティア活動も広げたいと考えており、海陽町のボランティアに今年から参加してもらう予定である。

④ 交通アクセス等の課題

船を1日12便運航したが、朝一番に徳島から特急で来ても渡船できないという問題が生じた。

既存の渡船の頻度アップでは収容人数に限界があったため、チャーターによる増便を実施しようとしたが、許可の要件上で実施が困難なため、渡船のチャーターは出展者や関係者（ボランティア）が乗るとの用途を限定しての利用であった。地元住民からは船が開催期間中に満席であることや、来訪者の島内の写真撮影等のマナーに関する苦情があった。

(14) 牟岐・海陽におけるスポーツツーリズム

図表 2-50 事例の概要

| | | | |
|--------------|---------------|------|---------------------------|
| 名称 | 牟岐海陽スポーツツーリズム | 主体 | クーランマラン人力旅行社, ClubNoah |
| 地区 | 牟岐・海陽 | 時期 | 通年事業 |
| 種別・ 事業タイプ | 萌芽事例・体験ツーリズム系 | 事業進捗 | 発展段階 |

①事業内容

ア) シーカヤックやトレイルラン等

クーランマラン人力旅行社では、ツアーはシーカヤック、コーステアリングやトレイルランニング等のサポートサービスを実施している。来訪者数はシーカヤックが6割、その他が4割程度となっている。

トレイルランは平成27(2015)年1月の開催で6回目、約800名が参加している。半分位はリピーターであると思われる。炊き出しを含めて100名のスタッフ、ボランティア30名、県職員、地元等に手伝ってもらっている。参加者が試走で本番前からよく来訪している。週末は30~40名/日は来ていると考えられる。シーカヤックは船を購入して本格的に続ける人は少数だと思われるため、このようなサービスを利用することが多い。現在3名で運営している関東店でシーカヤックに参加した顧客が気に入って徳島にも来るという例もある。徳島のスタッフは普段で2~3名、お盆限定で5~6名を雇用している。このようなツアーサービスは、ポータルサイトのレビューが重要で、高い評価をされると利用客が増加する要因ともなるので、ネット上での情報発信は重視している。

図表 2-51 シーカヤック



出所) クーランマラン人力旅行社HP から転載

図表 2-52 コーステアリング



図表 2-53 トレイルラン (三嶺⇒剣山縦走)



出所) クーランマラン人力旅行社HP から転載

イ) ダイビング

ClubNoah では施設としてのモラスコむぎを活用して、ダイビング事業と水族館事業を実施している。また、ダイバーに対して安全ガイドを実施している。四国内の県や徳島からの来訪は基本的にはない。

牟岐大島の千年サンゴは、希少性が高く、ダイビングポイントとしての価値が高い。

繁忙期の夏場に比較して、12～3月の間は来訪者が極めて少なく閑散期となる。通常時は、水族館の飼育員1人、ダイビング1人の人員で対応している。春と秋に体験型のダイビング等を実施して更なる誘客の努力をしている。シュノーケリングは小学生高学年に、ダイビングは中学生に対応

している。体験した小中学生が成長して興味を持ち、牟岐町への再来訪してくれることを期待して実施している。これらの体験には神戸や大阪の学校の利用が多い。

千年サンゴは、サンゴの一番上が水深 12m なので、シュノーケリングでの対応は無理である。1人での対応人員は最大 6 人位になるが、顧客のスキルや環境に応じて変わる。ダイバーは、夏は太平洋側が荒れがちのため日本海側に行くが、冬は日本海側が強風で寒く、太平洋側に来訪する傾向がある。基本的に経験者は自身の体調や海況の関係から機材を自家用車で持参するが、配送した荷物の受け取りの対応もしている。

牟岐町では、千年サンゴを活用したまちづくりの推進や交流促進を図るため、地域活性化センターに専用窓口や Web サイトを設けている。コブハマサンゴ「千年サンゴ」をシンボルとする豊かな自然を守り、次世代に継承するため、地元住民・団体等が一層の連携体制の下、それぞれの役割に応じた持続的な環境保全活動を推進する「千年サンゴと生きるまちづくり協議会」が発足している。

図表 2-54 牟岐大島の千年サンゴとモラスコむぎ



出所) 徳島県 HP・モラスコむぎ HP から転載

ウ) その他

その他のスポーツ関連の情報として、海陽町では「海部川風流マラソン」を実施しており、平成 27(2015)年 2 月の第 7 回大会の参加者は 1,665 名だった。

図表 2-55 第7回海部川風流マラソン



出所) 海陽町資料から転載

②関係主体

千年サンゴと生きるまちづくり協議会 (NPO 法人カイクフネイチャーネットワーク・(株)ノアむぎ 2000・牟岐東漁業協同組合・牟岐町商工会・牟岐町観光協会・もぐりんサンゴの会・牟岐町・徳島県(南部総合県民局)), 牟岐町地域活性化センター, 「四国の右下」 右上がり協議会

③広報宣伝活動/今後の発展方向

ア) シーカヤックやトレイルラン等

基本はホームページ, 東京側の利用者のレポート, 後は口コミによる広報宣伝となる。トレイルは 600 人→1,000 人へと 1 回当たりの参加数を増加させた場合, 駐車場, 送迎バス, 遊歩道の幅に制約がある。

水泳は適正な参加者数が決められているので, それに従ったスタッフの配置が必要となる。

最近, 興味のあるスポーツ等を個人でも体験できるメニューに若い世代の来訪者も多い。冬の気候の特性を活かして, ツアーの目標は 800 人/年位と考えている。

イ) ダイビング

ブログ等の SNS で情報発信を行っており, ダイビングショップからの紹介も多い。南のサーフポイントにはライブカメラが設置されており, その日に潜れるか, 波の確認ができる。

ウ) その他

「四国の右下」 右上がり協議会(阿南市・那賀町・牟岐町・美波町・海陽町・阿南商工会議所ほか)では、①地域色あふれる新たな商品開発、②新たなにぎわいの創出、③メディアを活用した「四国の右下」の露出度の向上の3つのプロジェクトを推進しており、「南阿波アウトドア道場」と題した冊子を作成して、アウトドアスポーツの普及を図っている。

④交通アクセス等の課題

ア) シーカヤックやトレイルラン等

フィールドの狭いところであり、実施回数等については、自然保護団体や利害関係者との調整が必要である。宿泊施設や外食の場所が少なく、ツアーは原則として現地集合・現地解散になる。

トレイルランを拡大するに当たっては、道路使用許可等の関係から地元の役場等の公的機関との連携や対応する人員の確保が課題となる。

イ) ダイビング

ツアーの実施に当たり利害関係者との調整が難しい。

現在、漁業との兼ね合いから千年サンゴを見るためには午前しか潜れない。基本は日曜から月曜の昼便で到着し、翌朝から千年サンゴのダイビングを実施することになり結果的に滞在時間が増える。施設の老朽化やバリアフリー化等での課題も多い。

(15) 航空旅客創出マッチングフォーラム

図表 2-56 事例の概要

| | | | |
|----------|------------------|------|-------------|
| 名称 | 航空旅客創出マッチングフォーラム | 主体 | 徳島空港利用促進協議会 |
| 地区 | 徳島市(初回) | 時期 | 1日の会議形式 |
| 種別・事業タイプ | 萌芽事例・イベント系 | 事業進捗 | 萌芽段階 |

①事業内容

徳島空港利用促進協議会では、利用者の拡大を目的とした、新たな旅客需要創出のための最初のマッチングフォーラムを平成26(2014)年12月19日に徳島市内の徳島グランヴィリオホテルで実施した。

ビジネス(第一需要)や従来型の観光(第二需要)に続く第三需要(研修・視察・学術研究・教育等)を創出する上での課題を解決するヒントとして、徳島県内の地域活性化や学術研究等の事例

や、県外の地域づくりの先進事例に関する情報共有を図りながら、業種や社会構成主体の枠を超えた、情報共有や人材ネットワークの構築等の交流の場を設けた活動が実施された。

図表 2-57 航空旅客創出マッチングフォーラム（平成 26(2014)年 12 月 19 日開催）

| 名称：航空旅客創出マッチングフォーラム | プログラム |
|-----------------------------------|--|
| 日時：平成 26(2014)年 12 月 19 日 15～18 時 | 1. 基調講演（15:00-15:40） ● 「第三需要を見据えた地域の新たな空港利用戦略を目指して」【四国大学生生活科学部生活科学課 准教授 服部大輔】 2. 研修・視察受入に向けた先進事例（15:40-17:15） ● 「上勝町における空港利用の可能性」【㈱いろどり 谷健太】 ● 「地域を活かすジビエ料理」【㈱四季美谷温泉 支配人 平井滋】 ● 「木質ペレットを主としたバイオマスエネルギーの取組」【阿賀町農林商工課 課長補佐 若狭孝之】 ● 「会津若松の産業観光の可能性」【会津若松市企画政策部 総務主幹 村井遊】 3. 情報共有・講評（17:15-18:00） ● コーディネーター：阿南工業高等専門学校 准教授 加藤研二 |
| 場所：徳島グランヴィリオホテル | |

図表 2-58 フォーラムの実施状況



②関係主体

旅行会社、企画事業者、温泉施設、市町村

③広報宣伝活動／今後の発展方向

パンフレット等の作成、県内外企業への営業活動。

④課題

一過性のものでなく、継続的な取組が必要である。

マッチングを実施するために萌芽となる事例の育成が不可欠である。

(16) 航空貨物創出マッチングフォーラム

図表 2-59 事例の概要

| | | | |
|----------|------------------|------|-------------|
| 名称 | 航空貨物創出マッチングフォーラム | 主体 | 徳島空港利用促進協議会 |
| 地区 | 徳島市（初回） | 時期 | 1日の会議形式 |
| 種別・事業タイプ | 萌芽事例・イベント系 | 事業進捗 | 萌芽段階 |

①事業内容

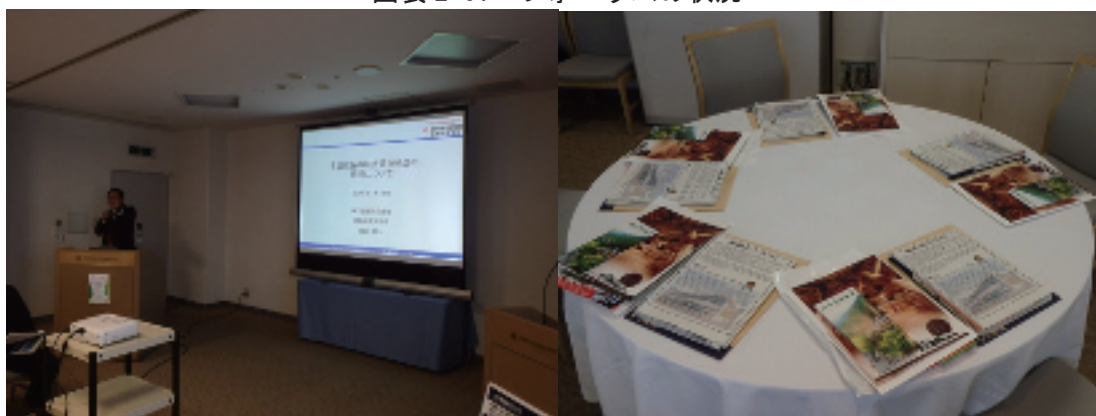
徳島空港利用促進協議会では、航空貨物の需要拡大を目的とした、最初のマッチングフォーラムを平成27(2015)年1月16日に徳島市内の徳島グランヴィリオホテルで実施した。

航空貨物の需要を生み出す種となりうる素材や、優れた加工技術を有する企業を交え、徳島県内における航空貨物の現状や、県外の地域づくりの先進事例に関する情報共有を図りながら、業種や社会構成主体の枠を越えた、情報共有や人材ネットワークの構築等の交流の場を設けた活動が実施された。

図表 2-60 航空貨物創出マッチングフォーラム（平成27(2015)年1月16日開催）

| | |
|---------------------------|---|
| 名称：航空貨物創出マッチングフォーラム | プログラム |
| 日時：平成27(2015)年1月16日15～18時 | <p>1. 基調講演（15:00-16:00）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「航空貨物需要の開拓は「つくる」から」【阿南工業高等専門学校 准教授 加藤研二】 ● 「航空貨物の取扱いの現状について」【日本通運(株)徳島航空支店 支店長 菅原章人】 <p>2. 地域再生の芽となる事例の紹介（16:00-17:10）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「(株)ビックウィルに関する事例紹介」【(株)ビックウィル営業企画部 部長 河原悦司】 ● 「北海道旭川市の事例紹介」【旭川市工芸センター 所長 鈴木三千仁】 ● 「新潟県森林組合連合会の事例紹介」【新潟県森林組合連合会木材流通部 次長 小田清広】 <p>3. 情報共有・講評（17:10-18:00）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コーディネーター：四国大学生生活科学部生活科学科 准教授 服部大輔 |
| 場所：徳島グランヴィリオホテル | |

図表 2-61 フォーラムの状況



②関係主体

日本通運(株)徳島空港支店・木材事業者

③広報宣伝活動／今後の発展方向

パンフレット等の作成，県内外企業への営業活動。

④課題

一過性のものでなく，継続的な取組が必要である。

マッチングを実施するために萌芽となる事例の育成が不可欠である。

(17) 空港出発ロビーを活用したアクティブディスプレイの展示

図表 2-62 事例の概要

| | | | |
|----------|----------------------------|------|----------------|
| 名称 | 空港出発ロビーを活用したアクティブディスプレイの展示 | 主体 | 徳島空港ビル(株)・四国大学 |
| 地区 | 徳島阿波おどり空港 (3回) | 時期 | 1か月間展示×3回 |
| 種別・事業タイプ | 萌芽事例・イベント系 | 事業進捗 | 萌芽段階 |

①事業内容

徳島空港ビル(株)では，商用利用・観光利用に次ぐ旅客第三需要や新規航空貨物需要創出の取組を支援するため，四国大学の支援を得て，徳島阿波おどり空港3階の出発ロビー前に実物や模型等のアクティブディスプレイや産学民官のキーパーソンに関する情報を記載したマッチングパネルを設置する試験を平成26(2014)年8月・10月及び平成27(2015)年2月に実施した。

特色として，観光に関する要素を極力抑え，再生可能エネルギー・バイオマス等の学術研究やジビエ料理，エコ・スポーツ・アートツーリズムなどの新分野に関する紹介を行ったこと，また関係者の所属・連絡先を記載することにより，マッチングの要素を取り入れたことが挙げられる。

図表 2-63 アクティブディスプレイ展示の概要

| 名称 | 実施期間 | 実施内容 | アクティブディスプレイ | 注目する参加者 |
|---------------|----------------|------------------------------|----------------------|---------------------|
| かみかつディスプレイ | 平成26(2014)年8月 | 上勝町内の環境・農林・学術系のキーパーソンの紹介 | 広葉樹苗木・間伐材を活用した家具・用品類 | (株)いもどり・徳島大学上勝学舎 |
| なかディスプレイ | 平成26(2014)年10月 | 那賀町内のジビエ・バイオマス等に関するキーパーソンの紹介 | ナノ水力発電機・ウッドプラスチック用品 | 三重大学・発電機メーカー |
| 総合マッチングディスプレイ | 平成27(2015)年2月 | 県西部圏域・海部郡・会津若松市・阿賀町に関する紹介 | 極薄突板を活用した文房具・オフィス用品 | 会津若松市・阿賀町・(株)ビッグウィル |

②関係主体

徳島空港利用促進協議会，高等教育機関，旅行会社，運送会社，事業者

③広報宣伝活動／今後の発展方向

事例紹介の深化(紹介事例の進展や時点修正，新規紹介事例の創出)，県内外の旅行会社・高等教育機関・企業等への営業活動。

④課題

観光振興に依存することのない，需要創出に向けた継続的なコンテンツの提供が必要である。また，ディスプレイに関心を示した企業等に対する説明の窓口の設置が今後必要である。

4. 事例を基にした有望な地域再生の方向性検討

これまでに調査を実施した事例の詳細分析を基に、事業タイプや進捗状況から以下の8つの方向性を示す。なお、地域再生の方向性については、調査の結果を基に検討したものであり、必ずしも実施主体の確認をとっているものではなく、可能性として、特に空港機能との連携に視点をおいて取りまとめているものである。

(1) 中山間地の新規事業や環境対応からの研修事業

現状認識：上勝町では、はっぱビジネス、ゼロ・ウェイスト、木質バイオマス等の新規事業や環境対応が実現しており、これらを視察や研修といった形でビジネス化し、誘客している。これに類似するのが、那賀町のリグノフェノール精製事業や液体燃料化実証実験である。

課題：誘客の観点からは新規事業や環境対応が単体として成功することが重要であり、それによって全国から視察や研修という形で誘客が可能となる。つまり、地域独自の事業としての成功が課題である。さらに新規事業や環境対応は基本的には集客が目的ではないことも、空港視点の誘客では留意する必要がある。

地域再生の方向性：全国でも稀な新規事業や環境対応を育て、成功に導く、その上で市町村単位や近接する市町村間でネットワーク化し、視察・研修事業へと発展させる。

(2) 棚田ネットワークによる農業体験&担い手誘致

現状認識：棚田は徳島の山間部に多くみられる形態であり、課題として担い手不足が共通することから、上勝町の棚田恵み感動ビジネスは先進的と言える。この事例自体も萌芽段階であり、ビジネスとして安定するように育成が必要である。

課題：棚田の提供や4回にわたる棚田訪問時の宿泊施設形成等も課題である。誘客を県外、特に航空利用で東京便や福岡便などで実施することを念頭にした場合、首都圏近郊や九州にも棚田が存在するため、徳島の棚田を訪問する必要性が重要である。言い換えると県内からの誘客で十分である可能性もある。

地域再生の方向：担い手のない若しくは不足する棚田を把握し、これらを利活用するための組織を形成し、誘客する必要がある。

(3) 剣山及び周辺資産を活用したツーリズム

現状認識：剣山は日本最南端の樹氷が見られる四国第二位の山である。剣山には現在4ルートの登頂ルートがあり、その1つが那賀町の四季美谷温泉からのルートである。エコツーリズムの1つとなる登頂ルート別に四季美谷温泉のジビエ料理を絡めた地域再生が萌芽である。

課題：那賀町を筆頭に剣山への空港からの公共アクセスはバスとなり、徳島駅及び現地までも数度乗り換える必要があり、利便性の高いアクセス方法が必要である。剣山とその周辺資産だけでは吸引力が十分でなく、ジビエのような宿などに独自性が欲しい。

地域再生の方向性：那賀町だけでなく、現在でも4ルートから登頂しての頂上で会うというイベントもあり、他の3地域のポテンシャルを上げ、競争と連携によって相乗的にポテンシャルが高まる可能性が大きい。また、ジビエ料理、ジビエ加工食品、処理済鹿肉等は航空貨物としての増大が期待される。

(4) 中山間地の共通課題である森林の保全と事業継続

現状認識：急こう配の多い徳島県の森林では、担い手不足、国産材の低価格化等の問題が生じている。このような中で徳島森林づくり推進機構による県としてのとくしま絆の森やとくしま協働の森といった取組を進めている。上勝町のかみかつ里山倶楽部では高丸山千年の森の一角に遊学の森を設けて、誘客を実施している。

課題：高丸山千年の森は、誘客まで至っている例であるが、誘客の観点では大学の連携は別にして県外からの必然性が乏しい。とくしま絆の森やとくしま協働の森は、萌芽段階であり、今後、研修系への発展などの可能性はあるものの森林の事業や保全はそもそも誘客のメインとはなりづらい。また、森林の抱える問題は山間部を有する地域では共通の課題であり、徳島に誘客する必然性の育成も不可欠である。

地域再生の方向性：課題が多く、誘客の観点からは未知数と考えられる。

(5) にし阿波における体験教育・視察研修ツーリズム

現状認識：合併による三好市誕生時に設立された「そらの郷山里物語」を基本に、三好市、美馬市、つるぎ町及び東みよし町の2市2町からなる「にし阿波」地域へとサービスエリアが拡大された。現状で4,000人の受入態勢を持つ体験型及び視察研修型の萌芽である。現在は修学旅行等の学校向けを中心に実施しており、今後の新たな展開として一般や外国人の受け入れをスタートした段階である。

課題：地勢的に空港利用者は高松空港がメインで次いで徳島阿波おどり空港であり、県外への流出をなくすために徳島市及びその周辺と連携が必要である。学校の団体の場合、300名規模もあり、この場合3便に分けて後は貸切バスとなるが、外国人等の個人から数名の顧客は空港からのアクセスや域内での移動手手段の確保が課題である。

地域再生の方向性：三好市はかずら橋（32.9万人）等に多くの観光客が訪れている。これらの受け入れをベースに新規に体験教育・視察研修を今後も堅調に増加させていく。コンテンツの発掘も継続実施しており、成長が期待できる。しかしながら、地の利は高松空港が有利であり、徳島市

周辺との連携が重要である。また、阿波池田商工会議所の実施する四国酒まつりは集客エリアが狭いものの5,000人の集客があり連携が有望である。

(6) 天然木極薄ツキ板連続シートの製造・販売

現状認識：(株)ビッグウィルでは間伐材の有効活用の観点から技術的に難しい天然木を活用した極薄ツキ板連続シートを開発し、不燃性の壁紙「恋樹百景」や、折っても割れない「樹の紙」関連商品の製造販売を行っている。高い技術力から成長が期待される萌芽である。現時点では工場が手狭であり、新工場の操業が期待される。

課題：基本は原料としての天然木極薄ツキ板連続シートの製造に特化したいが、販売先が少なく売り込みをかけて行く必要がある。販路が確立できれば付加価値の高い製品であり、航空利用の可能性が高い。

地域再生の方向性：天然木極薄ツキ板連続シートが認知され、これを使った製品開発が進めば大量生産体制が構築可能であり、地域の新たな雇用の場の創出が可能となり、航空貨物需要として期待される。また、研修事業としての情報発信にも意欲的であり、上述の「にし阿波」における体験教育・視察研修ツーリズムとの連携も有効である。

(7) 牟岐・海陽における閑散期の長期イベントを軸とした体験型ツーリズム

現状認識：牟岐町商工会で平成25(2013)年から実施している「出羽島アート展」は、空き家が多く、住民も高齢者となっている出羽島に若者を誘客するためにスタートした。ある程度定着してきたため、出羽島だけでなく牟岐町全般と連携して、イベントに参加した人々に対応していく方向にある。今後は牟岐町だけでなく海陽町とも連携し、南部の誘客の起爆剤となることを目指している。

課題：出羽島アート展としては島への交通手段が期間限定の渡船許可が下りず課題である。このまま来訪者が増加すると宿泊施設が不足することが懸念される。今後は牟岐町や海陽町の他の体験型事業との連携がキーとなり、その場合の域内交通も課題となる。

地域再生の方向性：牟岐町や海陽町の閑散期に誘客することが長期的な目標であり、今後の発展が期待できる。交通や宿泊施設の問題を解決を図ることで大幅な誘客の増大が期待できる。

(8) 牟岐・海陽でのスポーツツーリズム

現状認識：牟岐・海陽は千年サンゴに代表されるスポットのあるダイビング、島が多く変化に富んだ海岸線を使ったシーカヤック、太平洋の良好な波を活かしたサーフィン、豊富な魚類を狙った釣り等の多くのマリンスポーツが楽しめ、さらには急傾斜地を活かしたトレイルランも那賀町との連携も含め実施されている。冬場も比較的温暖でありマリンスポーツが体験可能である。

課題：良好な魚場である牟岐・海陽の沿岸は、マリンスポーツで利用するためには漁業関係者との調整が必須であり、効率的に実施する必要がある。マリンスポーツの場合、空港からの交通アクセスや域内交通も大きな課題であるが、リピーターになると機材も伴うことに対応が必要。需要拡大には宿泊施設の増強も課題である。

地域再生の方向性：既に夏は一定の集客が見込めているが、宿泊施設がボトルネックになっている。一方、秋から春は閑散期となる。これが宿泊施設の拡大にもつながっていない要因と想定される。マリンスポーツを地元で認知し、誘客することで活性化を図り、冬場の誘客を前述のイベント等と連携して実施することも有効である。